

茨城工業高等専門学校 平成29年度計画・実績報告

		平成29年度年度計画	平成29年度実績報告
I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するための取るべき措置 【1. 教育に関する事項】 (1) 入学者の確保	①	I. 本校ホームページを継続して積極的に活用し、本校のPR活動を行う。併せて、ホームページの見直しを行う。学生公募によりホームページのデザインを作成して、学生目線でのトップページとする。また、各系のデザインの統一を進め、見やすさを向上させる。外国語ページに関しては、各国からのアクセス情報を調査し、言語数を厳選することで、費用対効果の向上を図る。	I. ホームページについて、更新情報が分かりにくい等の保護者からの意見があり、女子学生や女子教員の協力のもと、人を引きつける色合いや画面配置などを大幅に見直したりリニューアルを行い、3月26日に公開した。外国語のページについては、アクセス数の調査結果を元に、現在の3ヶ国語(英語、韓国語、モンゴル語)から、2ヶ国語(英語、タイ語)に変更することに決定し、タイ語のページは、来年度以降に作成することとした。
		II. 本校が開催するイベント案内等を市報等の媒体に掲載し、茨城高専のPR活動を行う。	II. 「おもしろ科学セミナー」の案内を市報に掲載し、本校のPR活動を行った。また、「公開講座」の案内を「げんきNetひたちなか」「茨城県生涯学習情報提供システム」及び「茨城マリオン」に掲載した。
	②	I. 本校において、中学生対象の一日体験入学を実施すると共に、県内8箇所中学生・保護者等対象の学校説明会並びに中学校教員対象の学校説明会を実施する。平成29年度に学科改組を行ったため、平成28年度と同様に、上記の説明会等の取組みを充実させる。また、中学校等が主催する学校説明会にも積極的に参加する。	I. 7月、8月に県内8カ所で地区別学校説明会を実施した。また、9月23日に一日体験入学及び学校説明会を開催した。これらの参加人数の合計は延べ1,091人(前年度の74人減)であった。8月25日、9月21日に中学校進路指導教員を対象とした学校説明会を開催し、39人が参加した。また、11月22日には入試に重点置いた説明会を開催し、29人が参加した。
		II. 女子中学生向けの広報誌を作成し、県内の中学校に配布するとともに、本校の一日体験入学において、女子中学生を対象にしたコーナーを設け、女子学生の確保に努める。	II. 女子中学生の志願者確保に向けた取り組みとして、水戸地区及びつくば地区の学校説明会に本校の現役女子学生とOGを招き、本校のPRを行った。また、一日体験入学では女子中学生を対象とした「女子Café」のコーナーを設け、本校の女子学生が学生生活に関する質問等に応じた。大変好評であったが、一方で男子も在校生の声を聞きたいとの要望があったため、次年度以降は女子限定との印象を持たれないような開催形式の検討を提案した。女子中学生向け広報誌「Girls × Technology」1,000部、女性教員紹介のリーフレット1,000部、ポスター250部を作成した。これらを、9月上旬に行った中学校訪問の際に約200部を各中学校へ配布するとともに、9月23日に開催した一日体験入学においても配布し、女子中学生への広報活動を行った。結果、次年度は34人の女子学生が入学予定である。

茨城工業高等専門学校 平成29年度計画・実績報告

	平成29年度年度計画	平成29年度実績報告
	Ⅲ. 小中学校向けの「おもしろ科学セミナー」を開催し、社会に貢献すると共に本校のPRを行う。	Ⅲ. 8月17日、18日に「おもしろ科学セミナー」を開催し、小中学生297人を対象に体験型のセミナーを開催した。
③	Ⅰ. 例年通り、広報誌「What's茨城高専」、学校要覧、高専だよりを編集・発行する。本年度は、学校要覧を改組後と改組前を統合した要覧とすることで、改組の目的の見える化に努め、入試倍率の向上につなげる。	Ⅰ. 7月に「What's茨城高専」、8月に改組前と改組後を合わせた構成の「学校要覧」を発行し、入試広報等に活用した。 また、高専だよりを3月に発行した。
	Ⅱ. 学科改組に伴い、平成28年度は、学校説明会資料等を大幅に改訂し、中学生とその保護者等への説明資料とした。平成29年度は、3つのポリシーを反映させ、より分かりやすい情報を提供する。	Ⅱ. 3つのポリシーは、学校説明会等に用いる資料及び説明会に用いるプレゼン資料に掲載し、情報提供を行った。
	Ⅳ. アドミッション・ポリシーに沿った人材を選抜できるように、学力の3要素を踏まえた入試制度を検討する。	Ⅳ. 学力の3要素を踏まえ、平成30年度入学志願者調査書のフォーマットを一部変更した。
⑤	Ⅰ. 各種イベントに本校の女子学生を動員し、女子中学生との交流を通じた本校PRを行う。	Ⅰ. 7月23日に開催した水戸地区説明会に本校の女子学生2人を動員し、本校のPRを行った。また、一日体験入学では、女子Caféを設け、本校の女子学生が女子中学生を対象に本校のPR等を行った。
(2)教育課程の編成等	Ⅰ. 3つのポリシー、モデルコアカリキュラムを踏まえて、科目のナンバリングやルーブリック評価シート等を検討し、Web共通シラバスに反映させる。	Ⅰ. Webシラバスへの移行に際して、ルーブリック評価等を設定し、MCCに紐付けしたシラバスを作成した。科目のナンバリングを検討し、ナンバリングのルールを作成した。なお、そのルールの適用は平成30年度以降に行うこととした。
	Ⅱ. 国立高専第2ブロック内での連携を密にして、教育課程の編成等に関する情報交換を行う。	Ⅱ. 9月7日、8日に木更津高専で実施された第2ブロックの教務主事会議において、教育課程の編成等に関して情報交換を行った。

茨城工業高等専門学校 平成29年度計画・実績報告

平成29年度年度計画	平成29年度実績報告
<p>Ⅲ. イニシアティブ4.0(新展開事業)に基づき、グローバルエンジニアを育成するためのキャリア教育を検討する。</p>	<p>Ⅲ. イニシアティブ4.0に採択されなかったが、キャリア教育を充実するためのWGを発足し、検討を開始し、平成30年度に1学年の授業の一部に導入教育を行う予定である。平成30年度も引き続き、キャリア教育の充実のために、WGで検討する予定である。</p>
<p>① Ⅳ. 平成28年度入学生からタブレットPCを導入した。この効果を検証すると共に、全学年のICTを利用した教育やアクティブラーニングの状況を検証し、より一層の教育の高度化を図る。また、OCWやMOOCs等の外部の教育資源のより一層の有効活用を推進する。</p>	<p>Ⅳ. 平成28年度に引き続き、入学生にはタブレットPC等の購入を義務づけた。なお、平成29年度は、利用学生を対象に実施したアンケートの結果を踏まえて、機種仕様を見直した。平成29年度の1学年は、学科改組により、前年度の教育課程と異なるために、活用状況の比較は難しいが、新規に開講された「国際創造工学基礎」科目等で、ICTを活用した授業が行われている。しかしながら、タブレットPC等を導入している本科1、2学年の授業担当者へのアンケートによると、授業で利用している割合は45.8%で、今後とも授業等でのタブレットPC等の使用を推進する必要がある。一方、授業外での学生に利用させている割合は54.2%である。授業内外において、電子化した授業資料の配付、CBT、Google Classroom等を利用した取り組みが行われている。</p>
<p>Ⅴ. 学生の国際的な活動を推進するために、平成28年度にその活動を評価できる授業科目(「グローバル研修」、「グローバル特別研修」)を設け平成29年度から開講することとした。平成29年度は、この科目の取得状況等を調査する。</p>	<p>Ⅴ. 学生の国際的な活動を推進するために設けた科目「グローバル特別研修」において専攻科生1人が単位取得した。3月に、本科生1人が「グローバル研修」、専攻科生5人が「グローバル特別研修」の対象となる海外での活動を行った。</p>
<p>Ⅵ. 専攻科の改組に向けて議論を始める。</p>	<p>Ⅵ. 本科改組後の、現本科1年生が専攻科に入学するのに合わせ、改組は行わず、カリキュラムの改訂を行うこととした。今後、カリキュラムの改訂に向けて議論する予定である。</p>
<p>Ⅶ. 少子化対策及びグローバル化のため、来年度、高専機構全体で受入れる予定(1年次受入れ)のタイ人中学生の事前研修プログラムを推進し、併せて受入れのための体制を整備する。</p>	<p>Ⅶ. 来年度1年次受入れの候補生であるチュラポン王女サイエンスハイスクール中学生を24人(昨年度3月の研修とほぼ同一)の事前研修プログラムを8月に実施した。そのうち3人を来年度4月に受け入れる。教室改修、特命教員(2名)募集、カリキュラム作成(日本語の新設)、クラス編成、ホストファミリー等の準備を行った。3月に現地にて入学説明を実施した。また、奨学金の確保を目的としたクラウドファンディングを実施し、約130万円の外部資金の獲得に成功した。さらに、他高専での受入準備の一環として、3月に寮見学を含む本校での準備状況の説明会を他高専に向けて実施した。</p>

茨城工業高等専門学校 平成29年度計画・実績報告

平成29年度年度計画		平成29年度実績報告
②	I. 学習到達度試験の成績上位者について表彰し、基礎科目である数学、物理の学習意欲向上を図る。また、学習到達度試験結果を分析して、教育の改善に活用する。	I. 学習到達度試験の成績上位者、数学で10人、物理で21人の学生に対して、終業式において表彰を行った。学習到達度試験結果の分析については平成30年度の初頭に実施する予定である。
	II. 専攻科生の特別研究発表及び本科全学科で実施している英語による卒業研究発表を継続して行う。また、1～3年生のGTEC試験及び4・5年生のTOEIC試験を実施する。	II. 前年度と同様に、英語による卒業研究及び特別研究発表を行った。4月6日にGTEC(本科1～3年)及びTOEIC(本科4, 5年)試験を実施した。
	III. 本科の学力入試の数学の成績を分析し、入学後に学力不振の恐れがある学生に対して、数学の補習を実施する。	III. 本科の学力入試での数学成績を分析した結果、入学後に学力不振の恐れがある4人の学生を対象にして、今年度からの初めての取り組みとして数学サポートプログラムを開始した。対象学生はタブレットPC上のビデオ教材によって補習を受講した。また、定期試験において、成績不振の学生に対しても、このプログラムを実施した。
③	I. 在学生による「授業評価アンケート」を実施し、その結果を教員にフィードバックして教育の改善に役立てる。	I. 前期科目については前期期末試験終了後に、後期科目及び通年科目については後期期末試験終了後に、「学生による授業評価アンケート」を実施した。後期実施のアンケートは、原則全科目・全教員を対象とした。個々の結果はそれぞれの教員にフィードバックし、全体的な傾向についてはグループウェアでその分析結果を公表する。評価の低い教員が数名おり、学科長等との面談を通して問題点の把握に努めている。次年度以降も各学科長の監督のもと、指導を続ける予定である。
	II. 卒業生による「卒業時アンケート」を実施し、その結果を分析し教育改善に役立てる。	II. 卒業生による「卒業時アンケート」を3月に実施した。授業・実験、卒業研究について、80%以上が満足したとの回答であった。アンケート結果はホームページに掲載する。結果の分析を行い、教育改善に繋げていく。
④	I. 各種の大会やコンテスト等については、関係の顧問や関係する委員会と意思疎通を図り、学生に対して出場や参加を積極的に促す。さらに学生から参加意思が表明された場合は、可能な限りそれが実現できるような体制を整える。また、大会やコンテスト等への参加のために必要となる交通費や宿泊費の一部を援助するために、後援会側と連携を図り、資金援助の点で最大限支援していく。	I. 本校代表として高専ロボコン、高専プロコンを始めとしていくつかの大会やコンテストに参加する際に、準備段階での製作費や必要経費の支援、あるいは参加のための各種経費に対して積極的に支援を実施した。その結果、高専ロボコンでは関東信越地区大会において準優勝を獲得するに至った。従来は1、2回戦あたりで敗戦することが多かったため、今年度は大きな躍進をしたといえる。また、高専プロコンも予選リーグを勝ち上がり、準決勝リーグまで進出するなどして健闘を見せた。全日本学生・ジュニア短歌大会でも入賞するなどして実績を上げることができた。さらに高専PRコンテンツコンテスト「ショートムービー部門」に応募したところ、審査員特別賞を得ることができた。

茨城工業高等専門学校 平成29年度計画・実績報告

	平成29年度年度計画	平成29年度実績報告
	⑤ I. ボランティア活動については社会貢献として単位化しており、学生のボランティア活動を継続して支援する。	I. 「社会貢献」の単位を取得した学生は17人である。
(3)優れた教員の確保	① I. 多様な背景を持つ教員の割合が60%を下回らないようにする。	I. 多様な背景を持つ教員の割合は63.38%である。
	② I. 国内外の大学に継続して教員を派遣し、教員の研究・教育に関する能力向上を図る。	I. 豊橋技術科学大学のグローバル人材育成力強化プログラムに、今年度1年間、教員1人を派遣した。
	③ I. 専門科目担当の教員については、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度な資格を持つ者の割合を全体として70%、一般科目担当の教員については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者の割合を全体として80%となるよう、学位取得等支援や教員採用を行っていく。	I. 現在、博士の学位を持つ者や技術士等の職業上の高度な資格を持つ者の割合は全体として86.21%、一般科目担当の教員については、修士以上の学位を持つ者や民間企業等における経験を通して高度な実務能力を持つ者など優れた教育力を有する者の割合は全体として76.92%であるが、平成30年度4月1日で、この割合は91.67%となる。 校長主導の下、教員1人に対して学位取得の支援を行っている。
	I. 平成29年度実施の教員採用において、女性のいない系等においては「女性限定」で教員公募を行う。	I. よりよい人材確保のため「女性限定」での公募は行わなかったものの、今年度行った教員公募において、「女性優先」とした。結果、次年度採用内定者9名のうち、3名が女性となった。
	④ II. 女性教職員の不安を解消するために、女性が利用するWCや更衣室において、盗撮機器等の定期調査を実施する。	II. 8月24日から9月27日にかけて、女性教職員が使用するWCや更衣室において盗撮機器等の目視調査を行い、いずれの箇所においても異常がないことが確認された。これまでに異常は確認されていないが、女性教職員の不安解消のため、次年度も引き続き同様の調査を行っていくこととした。

茨城工業高等専門学校 平成29年度計画・実績報告

平成29年度年度計画		平成29年度実績報告
	Ⅲ. 女性用施設・設備や各種制度等について見直しを行い、問題点の把握と改善に努める。	Ⅲ. 1月26日から2月28日にかけて、全教職員を対象に「職場環境に関するアンケート調査」を実施し、全体の約80%にあたる教職員から回答を得た。その結果、施設・設備や制度上の問題点について複数の指摘があったため、3月の運営会議及び教員会議で周知し、報告書を作成した。年度末であることから、次年度対応できる点から順次改善を行っていくこととした。
⑤	Ⅰ. ICTを活用した教育のさらなる推進のため、全教員向けにLMS・Office365講習会、アクティブラーニングに関する研修会を引き続き行う。さらに、近隣大学等が実施するFDセミナー等については教員に周知し、参加を推進する。	Ⅰ. 3月に全教員を対象として、ICTを活用した教育のさらなる推進を図るための研修会を実施した。実施内容は、授業でGoogle Classroomを活用している教員による事例報告である。参加できなかった教員は、後日ビデオ視聴で受講する。今後の授業に活かされるものと期待される。Office365講習会は学生向けの機能が一部授業で使用できないため実施していない。次年度も引き続き、セミナーの周知及び参加推進を図っていく。
⑥	Ⅰ. 本校職員表彰規則取扱要領に基づき、教育・研究活動や生活指導などにおいて顕著な功績が認められる教職員を表彰する。	Ⅰ. 学習指導法等の工夫や改善において優れた取組みが認められた教員1人を表彰した。
⑦	Ⅰ. 校長による教員面談と予算面からのバックアップの仕組みとして、引き続き国際会議参加のための校長裁量経費を設け、国際会議への参加、更には短期サバティカル支援等を行い、教員の研究への意識向上を図る。	Ⅰ. 例年通り校長裁量経費の中に、国際会議参加のための予算(100万円)を準備した。本年度は9件の支援を行った。短期サバティカルに関しては、申込がなく、今後の課題とすることにした。
(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム	Ⅰ. 平成26年度からモデルコアカリキュラムを保証する教育プログラムを実行している。アクティブラーニングの状況を把握し、教務関係部門と学術総合情報センターで連携を図りながら推進すると共に、各科目のナンバリングやルーブリック評価シートを整備し、Web共通シラバスに反映する。	Ⅰ. アクティブラーニングの実施状況に関する調査を行った。回答は204件で、設定した16の要素に関して、少なくとも1つの要素を授業等に取り入れている割合は64.2%で、5つ以上の要素を取り入れている割合は12.7%であった。実施している要素のベスト3は、振り返り、ペア・グループワーク、双方向型問題実習等であった。なお、CTT+資格取得者は21名である。平成30年度のWebシラバスへの移行に際し、本科科目のルーブリック評価を作成した。また、科目のナンバリングのルールを定めた。

茨城工業高等専門学校 平成29年度計画・実績報告

平成29年度年度計画		平成29年度実績報告
①	Ⅱ. 原級留置率・退学率の軽減のための対策を講じる。	<p>Ⅱ. 原級留置率・退学率の軽減のための対策として、以下の事項を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数学成績不振の1年生に対する補習(数学サポートプログラム) ・ 1年生全員を対象にした教員チューター制度 ・ 全学生の定期試験成績・欠課時数を全教員で情報共有 ・ 定期試験成績の科目毎分析結果を情報共有 ・ 各期の成績を保護者に郵送 ・ 全教員による教授方法の点検 <p>なお、仮進級対象者に対してはこれまでと同様に補習を実施した。また、仮進級対象者への指導を見直し、平成30年度からは早期に対象科目を合格できるように、柔軟に対応できる体制を整えた。</p> <p>平成29年度の原級留置者は、46人で、休学等による原級留置を除き、学力不振による原級留置者は、30人であった。この割合は、原級留置率の目標値3.50%に対して、2.70%であった。一方、退学者は30人で、このうち、消極的な理由で退学する人数は、1人であった。この割合は、退学率の目標値2.00%に対して、0.10%であった。今後とも、原級留置率・退学率の低減のための方策を検討し、実施する予定である。</p>
	Ⅲ. 専攻科特別実験への学生共同作業プログラムのルーブリック評価及び特別研究の充実・成果発表の英語化を継続して取り組む。	Ⅲ. 学生共同作業プログラムでのルーブリック評価及び特別研究の充実・成果発表の英語化を実施した。今後も、引き続き取り組んでいく。
②	Ⅰ. JABEE認定プログラムは、平成30年度の中間審査受審を最後に継続審査を行わないこととしたため、これにより教育の質低下を招くことのないよう、参与会の在り方や自己点検の在り方の再検討を行う。	Ⅰ. 教育の質の低下を招くことのないよう、授業改善のために「教員相互による定期試験問題等のチェック」についての申し合わせの改正を行った。
③	Ⅰ. 筑波大学大学院との連携協定に基づき、大学院留学生をチューターとして受け入れ、本校授業の教育指導等を行うことで交流を図る。	Ⅰ. 昨年度同様に、筑波大学大学院留学生6人をTAに招き、夏季集中講座「グローバル工学基礎」において、グループ学習を主体とした授業を展開した。
	Ⅱ. 第2ブロックグローバル化推進会議において、グローバル化についてブロック内で情報共有を行い、連携を検討する。	Ⅱ. 6月に開催された第2ブロックグローバル化推進会議に参加し、グローバル化について情報共有を行い、連携を検討した。

茨城工業高等専門学校 平成29年度計画・実績報告

平成29年度年度計画		平成29年度実績報告
④	I. 学内の優れた教育実践例として、昨年度の授業評価アンケートで高評価だった教員の取り組みをグループウェアで公表し、各教員の教育方法の改善を図る。	I. 教員の授業の取り組みを「学習指導法等の工夫・改善事例集」としてグループウェアで公表した。優れた取り組みと認められた教員の授業を参考にできるよう、優秀教員の授業を公開し、3人が参観した。今年度の授業の取り組みについても、各教員から報告を受ける。今後これについても全教員に公表し、各教員の授業力強化に繋げていけるよう努めていく。
⑤	I. 本校の改善すべき点を洗い出し、自己点検・評価委員会で具体的な改善策を検討する。また、チェック項目について見直しを行い、教員相互によるチェック体制を活かして教育の質を保つと同時に、さらなる改善を図る。	I. 授業改善のため「授業改善報告書」の提出、改善内容を全教員で会議で協議する等の改正を行い、3月に「教育改善会議」を実施した。定期試験問題及び授業改善計画書に基づき、改善内容を全教員で協議した。「授業評価アンケート」の実施方法を見直し、「授業評価アンケート」は原則全科目・全教員を対象とし、ネットワーク経由で実施することとした。「教員相互による授業参観」について今後検討していく。
⑥	I. インターンシップ受入企業を継続して開拓すると共に、校内説明会を昨年よりも早い時期に実施して学生が参加しやすい状況を整え、昨年度以上の学生がインターンシップに参加できるように計画する。	I. インターンシップの校内説明会を4月(昨年度までは5月)に実施し、今年度、本科で延べ107人、専攻科で延べ62人がインターンシップを行った。(昨年度は、本科109人、専攻科31人)
⑦	I. 地元企業の技術者の協力を仰いで、キャリアデザインの各講座を実施する。	I. 本科1年生を対象に「キャリアデザイン・スタートアップ講座」を7月19日に、本科3年生を対象に「キャリアデザイン基礎講座」を11月15日に実施した。本科4年生・専攻科1年生を対象に12月11日～1月18日にかけて計3回の「キャリアデザイン実践講座」を実施し、68人が受講した。受講生へのアンケートの結果、有意義であったとの意見であった。次年度も継続する方向で検討を進めている。また、12月6日には本科3年生を主な対象として「ジョブセミナー2017」を開催し、37社の企業に参加いただき学生の企業研究の場とした。学生からも企業からも好評を得た。次年度以降も継続する予定である。
⑧	I. 協定を結んでいる筑波大学と千葉工業大学、長岡・豊橋両技術科学大学、他の理工系大学と協議の場を持ち、在校生や卒業生の連携教育を推進する。	I. 長岡科学技術大学が中心となり実施している世界展開力強化事業(メキシコ)に参加し、グアナフアト大学付属高専との学生相互派遣により、国際交流を推進した。 豊橋技術科学大学で実施している「教員グローバル人材育成力強化プログラム」の長期FD(1年間)に、本校教員1人が参加した。 筑波大学との連携の一環として、筑波大学大学院の留学生に本校の夏季集中講義でTAを務めてもらい、本校専攻科生の指導に当たった。専攻科生7人が筑波大学大学院の研究室でインターンシップを行った。次年度以降も連携した研究や教育の一層の推進を図っていく。

茨城工業高等専門学校 平成29年度計画・実績報告

	平成29年度年度計画	平成29年度実績報告
⑨	I. BlackboardやOffice365等を有効活用し、ICTを活用した教育を推進する。また、OCWやMOOCs等の外部の教育資源の、より一層の有効活用を推進する。	I. 一部の授業でOffice365を利用しているが、今年度、利用停止のためにトラブルになった。一方、Googleのサービスを利用し、授業時間以外に学生に対応する事例もあった。
	II. ICTを利用した授業を行えるよう、低学年のホームルーム教室に対し、無線LANアクセスポイントの増設を行う	II. 9月に、第一教室棟及び情報工学科棟にあるホームルーム教室に無線LANアクセスポイント増設工事を行った結果、増設前より、安定した無線通信を提供することが出来た。
	III. 教務委員会と連携し、e-創造性工学実習(本科4・5年生に開講)に向けて、学生にICTを利用して学ばせる環境を提供する。	III. ICT環境として、Webclass及びBlackboardへ学生の登録を実施し授業で有効に活用できる環境を提供した。
	IV. 高専統一ネットワークシステムへの切り替えを行い、安定した通信を提供するよう勤める。	IV. 5月に高専統一ネットワークシステムへの切替を実施した。通信が途絶える等の大きなトラブルもなく、安定した通信を提供出来ている。
(5)学生支援・生活支援等	I. 学生生活を総合的に支援することを目的として、学生修学総合支援センター(仮称)を新設する。	I. 総合学生支援室(仮称)の設立について具体的に検討した。この支援室設立は、学生の心身に関する広範な情報収集及びその管理の一元化と、深刻な悩みを抱えているような学生の早期発見に繋げることが目的である。支援室にはスクールカウンセラーが配置され、学生のメンタルヘルスケアのみならず、学生を支援、指導する教職員へのアドバイスも積極的に行う点が特徴である。この支援室設立についての内容を、今回高専機構で新規に計上された特別教育研究経費「学生指導支援体制の再整備」の募集に対して事業計画として提出した。
	II. 「心と体の健康調査(自殺予防のためのチェックリスト)アンケート」を実施し、その結果を基にカウンセリングなどの個別対応を行う。	II. 「心と体の健康調査(自殺予防のためのチェックリスト)アンケート」を4月に実施し、その結果を基にカウンセリングなどの個別対応を行った。

茨城工業高等専門学校 平成29年度計画・実績報告

	平成29年度年度計画	平成29年度実績報告
	<p>Ⅲ. メンタルヘルスに関するカウンセリングを実施し、必要な対応を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1年生へのグループカウンセリングを行う。 2) 1年生に対するDV教育に関する講演会を実施する。 3) 3年生に対するカウンセリング講習会を実施する。 4) 留学生対象のグループカウンセリングを実施する。 5) 寮母とカウンセラーの情報交換を行う。 	<p>Ⅲ. メンタルヘルスに関するカウンセリングを実施し、必要な対応を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 1年生へのグループカウンセリングを4月～5月に実施した。 2) 1年生に対するDV教育に関する講演会を11月に実施した。 3) 3年生に対するカウンセリング講習会(心に栄養を与えよう)を10月に実施した。 4) 留学生対象のグループカウンセリングを12月に実施した。 5) 寮母とカウンセラーとの情報交換を11月に実施した。
	<p>Ⅳ. 学生相談室のカウンセラーを3人体制とする。</p>	<p>Ⅳ. 学生相談室のカウンセラーを3人体制にした。</p>
①	<p>Ⅴ. 運動部所属学生及び寮生を対象とする「普通救命講習会(AEDの使用方法)」を実施する。</p>	<p>Ⅴ. 1) 運動部所属学生及び寮生を対象とする「普通救命講習会(AEDの使用方法)」を10月に実施した。 2) 教職員を対象としたエピペンに関する講習会を11月に実施した。</p>
	<p>Ⅵ. 教職員に対しメンタルヘルス・発達特性に関する研修会・講演会を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教職員に対し、学生の自殺予防に関する研修会を実施する。 2) 教員に対し発達特性に関する講演会を実施する。 3) カウンセラーと教員による発達特性に関する懇談会を実施する。 	<p>Ⅵ. 教職員に対するメンタルヘルス発達特性に関する研修会・講演会を1月に実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教職員に対しての学生の自殺予防に関する講演会は6月に機構本部で実施した講演会(テレビ会議システム)に参加した。 2) 教員に対し発達特性に関する講演会を1月に実施した。 3) カウンセラーと教員による発達特性に関する懇談会を1月に実施した。

茨城工業高等専門学校 平成29年度計画・実績報告

平成29年度年度計画	平成29年度実績報告
<p>VII. 担当者が関連する研究会に参加し、メンタルヘルス・発達特性に対する支援体制の充実を図る。 1)全国大学保険管理協会関東甲信越地方部会研究集会及び地方部会に看護師が参加する。 2)全国学生支援担当教職員研修に学生健康センター員が参加する。 3)全国学生相談研修会に学生健康センター員が参加する。 4)心の問題と成長支援ワークショップに学生健康センター員が参加する。</p>	<p>VII. 担当者が関連する研究会に参加し、メンタルヘルス・発達特性に対する支援体制の充実を図った。 1)全国大学保険管理協会関東甲信越地方部会研究集会及び地方部会に看護師が参加予定であったが、日程の調整がつかず参加できなかった。 2)全国学生支援担当教職員研修(10月)に副学生健康センター長と看護師が参加した。 3)全国学生相談研修会に学生健康センター員が参加予定であったが、日程の調整がつかず参加できなかった。 4)心の問題と成長支援ワークショップに参加する予定であったが、日程の調整がつかず参加できなかった。 5)茨城県産業保険総合支援センター主宰の「産業保険セミナー」(6月)と同センター主宰の「職場の感染症対策」(9月)に看護師が参加した。</p>
<p>VIII. シェアハウス型を活用した留学生と日本人学生の交流の促進を促すプログラムを作成し、実施する。</p>	<p>VIII. 交流プログラム実行のためのアンケートを作成中である。</p>
<p>IX. 学生の安全を図るため、電子錠システムのデータの解析を行い、点呼システム、WEB外泊・外出管理申請システムとの連携の検討を行う。</p>	<p>IX. 電子錠システムのデータを朝の巡回時に利用し、迅速に学生の健康について対応することが可能になった。外泊、外出管理システムについては、セキュリティ上の関係で運用が遅れているが、後期から仮運用を行い、点呼システムとの連携を図れるものとした。</p>
<p>② I. 学寮ネットワークの更新及びその運用を外部へ委託することを、寮務委員会と学術総合情報センターで連携して実施する。</p>	<p>I. 寮務委員会と学術総合情報センターで連携を図りながら、ネットワーク外部委託のためのベンダーとの協議及び施設に関する調査を行い、2月27日にNTT回線工事に完了し、3月に各学寮内のスイッチ交換等が行われ、来年度から運用を開始することとした。</p>
<p>③ I. 校内各所の掲示板およびホームページを利用し、学生あるいは保護者に対して各種奨学金制度に関する情報をもれなく提供するとともに、必要に応じて担任等からの働きかけを行うなどして募集内容の周知徹底を図る。</p>	<p>I. 掲示板及びホームページを利用し、学生やその保護者に対して各種奨学金制度に関する情報をもれなく提供した。その結果、日本学生支援機構奨学金に関しては、本科で2人、専攻科で1人が奨学生となることができた。また産業界からの奨学生募集(平成30年度)に関して2人の学生から応募申請があり、それについては学生に対して詳しい内容の説明会を開いた上で、募集側に正式に申請手続きを行った結果、両名とも奨学生となることができた。</p>

茨城工業高等専門学校 平成29年度計画・実績報告

	平成29年度年度計画	平成29年度実績報告
	<p>④ I. 専攻科の進学先として位置付けられる近隣の大学院からのPR活動、インターンシップ、オープンキャンパス等の申し入れを積極的に受け入れながら、それらと連携を深め、専攻科生の進学先を開拓することで、魅力ある専攻科の構築を目指す。</p>	<p>I. 従来から関係のある大学院はもとより、最近では近隣研究所が連携して運用している大学院との関係を深めている。具体的には、専攻科生の新たな進学先を開拓するために、研究所・大学院から数人の研究者に来校いただき、本校専攻科学生に対して大学院内容、インターンシップ、オープンキャンパス、入試等の内容を説明していただく場を設けている。5月20日には筑波大学大学院数理物質科学研究科の見学会を企画し、9人の学生が参加した。</p>
(6)教育環境の整備・活用	<p>I. 改組に伴い、50人から80人程度の授業が可能な教室が不足していることへの対応及びグループワークなど新しい技術者教育のニーズに応えるため、老朽化した図書館と情報処理センターを一体化して設備の機能向上を図るとともに、大人数での授業が可能な施設の設置を進める。</p>	<p>I. 老朽化した図書館と情報処理センターの一体化に関しては予定通り「平成30年度施設整備費概算要求事業」として提案し、総合評価が昨年度のAからS評価に格上げされた。また、第I教室棟のロッカーを教室内から廊下へ移動することで教室内を広くし、必要に応じて最大50人で使用できるようにした。</p>
	<p>II. ほとんどの建屋にエレベーターがないため、階段を使用して荷物の搬入、設備や実験装置などの移動を行っているが、特に重量物の搬入の際には、安全性の確保に問題があるため、エレベーター設置の検討を進める。</p>	<p>II. エレベーターに関してはバリアフリーの観点から、現在設置場所の選定と費用の見積もりを進めている。マスタープランにも項目を追加するとともに30年度の営繕要求へ提案した。</p>
	<p>III. 安全衛生の点検管理を行い、実験室等の環境整備、校内の安全を確保する。</p>	<p>III. メール審議を含め、毎月安全衛生委員会を開催し、安全衛生の点検管理、実験室等の環境整備を推進した。</p>
	<p>IV. 施設の有効利用を図るため、施設の利用状況調査を行う。調査結果を開示することで、設備を相互に融通しやすい環境を整備する。</p>	<p>IV. 施設の利用状況調査については、11月に実施した。施設の有効活用を進めることを目的として、整備している設備の状況をグループウェアに公開した。</p>
	<p>① V. 研究成果発表及びPR用として導入した大型プリンタを効率よく活用することで、専攻科及び本科の研究活動の充実に寄与する。</p>	<p>V. 地域共同テクノセンターと協力して、大型プリンタを専攻科特別研究に限らず、本科学生や教職員の研究活動を支援するためにも活用した。</p>

茨城工業高等専門学校 平成29年度計画・実績報告

平成29年度年度計画	平成29年度実績報告
<p>VI. 総務部門と連携し、今年度リース期間満了を迎える電子計算機演習室のシステム・機器一式の更新を行う。また、来年度リース期間満了を迎える情報工学演習室においても更新計画の立案を行う。</p>	<p>VI. 電子計算機演習室の更新を行った。11月に業者が決定し、先行納入されたパソコンを用いてソフトウェアのインストールを実施し、3月中旬に納入された。残りのサーバやパソコン等の設置を行った。情報工学演習室については、総務部門、教務部門、情報系と相談し、来年度予算の確保も含めて調整を行っていく。</p>
<p>VII. MS包括ライセンスの扱いについては、機構本部の契約に基づき、公費で購入したPCへのインストールを行う。</p>	<p>VII. MS包括ライセンスについては、機構本部の契約に基づいて、例年通り公費で購入したPCへのインストールを実施した。</p>
<p>VIII. 学生の修学環境を整えるために演習室の教育環境調査を適宜行う。平成29年度はコンピュータ演習室の環境調査を行う。</p>	<p>VIII. コンピュータ演習室の環境調査を3月に実施し、特に問題ないことが確認された。</p>
<p>IX. PCB廃棄物については、平成28年度に高濃度PCB廃棄物を処分した。現存する低濃度PCB廃棄物は適切に保管し、予算措置があった場合には適切に処分を行う。</p>	<p>IX. 低濃度PCB廃棄物は、機構本部からの予算措置が行われ3月7日に搬出した。</p>
<p>I. ② ① ② I. 新入生及び教職員の新規採用者を対象に「実験実習安全必携」を配付する。</p>	<p>I. 今年度は、「実験実習安全必携」が高専機構からの送付がないため、実施を見送った。</p>
<p>II. 安全衛生管理のために産業医による講演会を実施する。また、教職員対象に救命講習会(AED講習会)を実施する。</p>	<p>II. 12月にAED講習会、2月に産業医の講演会を実施した。</p>
<p>I. 子育てや介護に関する各種助成制度、男女共同参画に関する他機関での取り組み等について、積極的に情報提供を行う。</p>	<p>I. 関連する情報については、グループウェアを通じてその都度情報掲示を行った。より効果的な情報提供のあり方については具体的な策を示すに至らなかったため、次年度持ち越しの課題として引き続き検討していくことにした。</p>

茨城工業高等専門学校 平成29年度計画・実績報告

	平成29年度年度計画	平成29年度実績報告
	<p>③ II. 男女共同参画に関する教職員の意識改革のための取り組みとして、教職員を対象に、ワーク・ライフ・バランスに関する講演会を開催する。</p>	<p>II. 全教職員を対象として、3月9日にワーク・ライフ・バランス講演会を実施した。茨城大学ダイバーシティ推進室室長の原口弥生教授を講師として、大学での取り組みや課題等について講演いただいた。</p>
	<p>III. 男女共同参画に関する学生の意識改革のための取り組みとして、学生を対象に、ジェンダーに関する講演会を開催する。</p>	<p>III. 第2学年を対象に、10月26日にジェンダー講演会を実施した。LGBTに関する初歩的な内容について、LGBTの当事者である弁護士、田中太郎氏に講演いただいた。講演後に学生に無記名の感想を書かせたが、かなり好評であったため、次年度も同様の講演会を計画中である。</p>
	<p>IV. 施設・設備の不備やハラスメントがないか等、男女共同参画の観点から教育環境を見直し、問題点の把握と改善に努める。</p>	<p>IV. 1月26日～2月28日の期間において、全教職員を対象とした「職場環境に関するアンケート調査」及び全学生を対象とした「キャンパスライフに関するアンケート調査」を実施した。ハラスメントと捉えられる事案が存在すること、業務内容や学習面での不満、施設・設備の不備等、複数の問題点が明らかになったため、次年度具体的な対策を検討していくことにした。</p>
【2 研究や社会連携に関する事項】	<p>① I. 教員の技術シーズ集を企業に配布して紹介する。顕著な研究成果を収めた教員を地域共同テクノセンターの出版物において紹介する。さらに地域企業と共同で国、県、市の研究助成金の獲得に努める。</p>	<p>I. 新しい技術シーズ集を作成し、企業やイベントで配布した。さらに顕著な研究成果についてはシーズ集で紹介されている。今年度は共同研究13件、寄附金8件、有料技術相談4件の外部資金を獲得した。</p>
	<p>II. 本校の科学研究費補助金の応募申請数および採択率向上を図るための方策を検討する。</p>	<p>II. 科研費採択支援事業を行い、3人の教員に研究費の支援を行った。教員会議において全員が科研費に応募する方針となっていることを周知した。また、採択率向上を図るため、学校長らによる計画調書のチェックを実施した。応募申請数は32件から38件、採択率は12.5%から13.8%と前年度を上回った。</p>
	<p>② I. ResearchMapを通じて、引き続き全教員の研究成果を広く公開する。さらに、適当な展示会を調べて研究成果を公表する。また、ひたちなかテクノセンターのコーディネータと協力して、地域企業の技術相談に対応し、更なる研究および技術促進に努める。</p>	<p>I. ResearchMapの記入については教員に周知し、日々、研究成果を更新してもらっている。今年度はアグリビジネス創出フェア2017及びめぶきFGものづくり企業フォーラム2018に参加し、研究成果を公表した。毎月、ひたちなかテクノセンターのコーディネータとの会議を行って情報交換を行った。今年度も12月に本校3年生を対象にジョブセミナーを行った。</p>

茨城工業高等専門学校 平成29年度計画・実績報告

	平成29年度年度計画	平成29年度実績報告
	<p>Ⅱ. 第二ブロックの研究推進事業として、本校が提案している「農林水産県の発掘研究グループのびしろ日本一を牽引する新市場の創出」の研究を進める。</p>	<p>Ⅱ. 12月23日に本校主管で開催した第2ブロック研究情報交換会において、発表を通して、情報を集め、研究を進めた。本校から9件(全体で76件)の発表が行われた。来年度も継続して実施できるように検討していく。</p>
③	<p>Ⅰ. 知的財産講習会などを開催する計画を進めている。本年度も昨年同様、3件以上の特許申請を目標にする。</p>	<p>Ⅰ. 知的財産講習会については機構本部主催の知的財産に関する講習会(テレビ会議システム)に参加した。特許に関しては1件の申請があった。また、2人の教員の特許維持費更新があった。今後、企業との共同研究を行った際、特許申請ができるような方法を検討する。</p>
④	<p>Ⅰ. ResearchMapに技術シーズを記入することができるため、これについて教員に周知する。また、国立高専研究情報ポータルを効果的に利用するため、教員に周知し情報の更新を進める。</p>	<p>Ⅰ. ResearchMapの記入については教員に周知し更新した。学校長から教員会議で国立高専研究情報ポータルの情報更新について教員に周知し、更新を進めた。</p>
	<p>Ⅰ. 地域技術者の育成を狙いとした社会人向けの講座を含め、公開講座を実施する。</p>	<p>Ⅰ. 年度始めに予定した7件の公開講座を実施し、中学生を中心に93人が受講した。</p>
⑤	<p>Ⅱ. ひたちなか市との連携協定に基づき、市内の小学校の理科教育支援のためのサイエンスサポーターを専攻科生から募集して派遣する。また、各種公開講座を実施し、その参加者に対して満足度のアンケート調査を行う。</p>	<p>Ⅱ. ひたちなか市内の2校の小学校に、専攻科生2人をサイエンスサポーターとして派遣した。また、公開講座の参加者へアンケートを実施し、8割以上の参加者から満足したとの結果を得た。市からも引き続きの実施要請があるため、次年度以降もこれらの事業を継続する。</p>
【3 国際交流等に関する事項】	<p>Ⅰ. 平成27年度から、長岡科学技術大学が中心となり、長岡高専、小山高専、鶴岡高専と連携して開始した世界展開力強化事業(メキシコ)の一環として、グアナファト大学付属高専と学生交流を行う。</p>	<p>Ⅰ. 7月にグアナファト大学付属高専から学生11人と教職員2人を受け入れた。3月にグアナファト大学付属高専へ学生3人と教職員1人を派遣した。</p>

茨城工業高等専門学校 平成29年度計画・実績報告

	平成29年度年度計画	平成29年度実績報告
	<p>Ⅱ. 既に締結済みの国際交流協定に基づき、韓国の朝鮮理工大学との学生交流、ニュージーランドのワイアリキ工科大学やフランスのルーアン応用科学大学への学生派遣を継続する。</p>	<p>Ⅱ. 9月に学生9人と教職員1人を朝鮮理工大学へ派遣した。1月に朝鮮理工大学から学生6人を受け入れた。3月にトイオホマイ工科大学(旧ワイアリキ工科大学)へ学生7人を派遣した。6月から8月にかけてルーアン応用科学大学から学生2人を受け入れた。3月に学生3人をルーアン応用科学大学へ派遣した。また、今年度からインドネシアのガジャマダ大学への派遣を開始し、3月に学生1人を派遣した。</p>
①	<p>Ⅲ. 本科「グローバル研修」および専攻科「グローバル特別研修」科目を平成29年度から開講したことに伴い、短期派遣を推進する。</p>	<p>Ⅲ. 「グローバル研修」として、台湾国立聯合大学への派遣、ガジャマダ大学への派遣を申請に基づき単位認定することとした。「グローバル特別研修」として、ISTS参加及びルーアン応用科学大学への派遣を申請に基づき単位認定することとした。朝鮮理工大学への派遣は、「実務研修」として以前から申請に基づき単位認定している。トイオホマイ工科大学への派遣は「実践英語」として以前から申請に基づき単位認定している。</p>
	<p>Ⅳ. 短期派遣だけでなく、中期・長期の滞在型の派遣のカリキュラム化の検討を継続する。</p>	<p>Ⅳ. 中期・長期の派遣については、解決しなければならない点について検討し、来年度以降も検討を継続する予定である。</p>
	<p>Ⅴ. 海外語学研修への門戸をさらに開くため、派遣先及び成績優秀者の参加費全額補助の導入についての検討を継続する。</p>	<p>Ⅴ. 成績優秀者の語学研修への参加費全額補助の導入については財源等の検討を継続する。新たな派遣先として、台湾国立聯合大学を加えた。</p>
	<p>Ⅵ. 日本学生支援機構の海外留学支援制度を積極的に活用し、学生の海外派遣及び受入れを継続する。</p>	<p>Ⅵ. 朝鮮理工大学への派遣、朝鮮理工大学からの受入れ、ルーアン応用科学大学、ガジャマダ大学の派遣に対して、JASSO支援を申請した。採択状況は、派遣プログラム3件が採択され、受入プログラム1件は不採択であった。なお、JASSO支援が得られなかったが、本年度は朝鮮理工大学が独自に支援を得られたので、受入れは実現できた。</p>
	<p>Ⅶ. 留学生の受入拡大を目的として多言語化した学校説明資料等を様々なメディアを用いた活用を継続するとともに、それらの資料の修正を行う。</p>	<p>Ⅶ. 既存の学校要覧の日本語英語併記版、韓国語版、中国語版、モンゴル語版、ベトナム語版、フランス語版、スペイン語版、ポルトガル語版、アラビア語版を利用し広報活動を展開している。</p>
	<p>Ⅷ. 平成28年度に作成した留学生が生活に必要な事項をまとめた手引きを活用する。</p>	<p>Ⅷ. 留学生及び海外からの滞在学生に対して手引きを活用した。</p>

茨城工業高等専門学校 平成29年度計画・実績報告

	平成29年度年度計画	平成29年度実績報告
	② I. 外国人留学生に対する支援として、国際交流クラブ、ひたちなか市国際交流協会及び市内の一般家庭との交流を実施する。	I. 新規の4人の留学生(3年次編入学)に対して、ひたちなか市内の一般家庭にホストファミリーを引き受けていただいた。留学生日帰り研修旅行を7月8日に実施した。茨城県留学生親善大使に7人が登録し、代表1人が任命式に参加した。7月2日に開催されたひたちなか市国際交流文化祭において、本校のネイティブの教員が総合司会を務め、「高専タイム」として、留学生がボーカルを務めるバンドの演奏、留学生による日本語スピーチ、教員によるグローバル化を中心にした本校紹介を行った。
	③ I. 関東信越地区高専で持ち回りで開催している外国人留学生交流会へ参加する。	I. 木更津高専が本年度担当した関東信越地区国立高専外国人留学生交流会(10月8日～9日)に留学生4人と教員1人が参加した。
	II. 第2ブロックグローバル化推進会議において外国人留学生に対する研修等を検討する。	II. 6月に開催した第2ブロックグローバル化推進会議において、各校における研修等について情報共有を行い、今後の連携を検討した。
【4 管理運営に関する事項】	① I. 校長のリーダーシップの下、予算配分を実施し、戦略的かつ計画的な学校運営を行う。例年通り、昨年度実績予算の半分を4月段階で配分することで、期末集中防止と効果的な活用を進める。	I. 昨年度予算実績の半分の4月に配分した。特別な理由のない費用以外は11月末までに発注完了することで、予算の有効活用を推進した。
	② I. 学内における系長、課長等に対する管理者講習会を継続して開催し、服務監督、心身における健康管理などの人事管理体制の強化を図る。	I. 管理者講習会として、「学校運営のためのリスク管理対応」をテーマとした講習会を、1月末に実施した。
	I. サーバー管理、メール管理、グループウェア管理など、学術総合情報センターと総務部門の役割分担を明確化することで業務の輻輳を抑制し、効率的な管理業務の運営を行う。	I. サーバー管理、メール管理、グループウェア管理などは学術総合情報センターと調整しながら進めている。総務部門に情報システムに詳しい人財を確保した。平成30年度は学術総合情報センターから順次業務移管を受け、総務部門が取りまられるように業務の見直しを進める。

茨城工業高等専門学校 平成29年度計画・実績報告

平成29年度年度計画		平成29年度実績報告
③	Ⅱ. 高専統一ネットワークの導入に伴い、ネットワーク基盤の一部であるサーバ機器の更新を行う。また、更新対象外のサーバについても、集約化を計画的に実施する。	Ⅱ. 5月に高専統一ネットワークの導入が完了した。本校が管理する物理サーバ10台を、3台に減らすため、3月に入替えを行った。物理サーバとして台数は減少したが、集約対象のサーバは、仮想マシンとして10台維持する計画であり、機能は縮小していない。
	Ⅲ. IT資産管理システムによる校内ソフトウェアの管理を実施する。コンピュータ台帳と実在コンピュータとの照合、ライセンスとコンピュータとのヒモ付の確認を徹底する。また、作業結果については、高専機構へ報告を行う。	Ⅲ. IT資産管理システムが更新されたため、機構本部の指示に従い、コンピュータ台帳と実在のコンピュータの照合、新システムのインストールを実施した。
④	Ⅰ. 教職員、学生に対し、情報セキュリティに関する注意喚起を継続して行う。また、教職員に向けて、情報セキュリティに対する意識向上のための研修を開催する。	Ⅰ. 11月7日に、機構本部CSIRT松野先生を講師として、情報セキュリティに関する講演会を開催し、教職員の情報セキュリティに対する意識向上を図った。
	Ⅱ. 機構本部が作成したコンプライアンスに関するセルフチェックリストを活用し、教職員のコンプライアンスの徹底を図る。	Ⅱ. 6月に機構本部が作成したコンプライアンスに関するセルフチェックリストを全教職員対象に実施した。全教職員に提出させた結果、コンプライアンス違反に該当する教職員はいなかった。次年度以降も全教職員にコンプライアンスの徹底を求めていく。
⑤	Ⅰ. 近隣高専との相互会計内部監査を引き続き実施し、監査体制の充実を図る。	Ⅰ. 機構本部が主導して行なう相互会計内部監査について、東京高専と11月22日、29日、30日に実施した。上記とは別に、毎年実施している福島高専との相互会計内部監査を9月29日及び10月11日に実施した。
	Ⅱ. 平成28年度に実施された国立高専機構監事監査及び内部監査における指摘事項について改善を行う。	Ⅱ. 国立高専機構監事監査及び内部監査で指摘のあった事項について、順次改善し、今年度で全て改善を完了した。
⑥	Ⅰ. 教職員に対し、会議や研修等の場において公的研究費等に関する不正使用について注意喚起し、不適正経理の防止に努める。	Ⅰ. 12月21日の教員会議において、公的研究費等の不正使用、不適切経理の防止について周知した。次年度も折に触れ注意喚起を行い、研究費の不正使用等の不適正経理防止に努める。

茨城工業高等専門学校 平成29年度計画・実績報告

	平成29年度年度計画	平成29年度実績報告
	Ⅱ. 教職員に対し、研究費の管理・使用について周知し、研究費の適正な執行に対する意識向上を図る。	Ⅱ. 高専機構、文科省、学振からの研究費の管理・使用についての通知は、教職員にメール及びグループウェアにて周知している。さらに、12月21日の教員会議においても周知した。引き続き全教職員に研究費の適正な執行に対する意識向上を図っていく。
⑦	Ⅰ. 高専機構主催の研修会をはじめとして、外部で開催する研修会を有意義に活用して、積極的に教職員を参加させる。	Ⅰ. 高専機構主催の教員研修、各所管職員研修等及び国立大学法人主催の実践セミナーや公文書管理研修、会計研修等に積極的に教職員を参加させた。
⑧	Ⅰ. 茨城県内の大学等で構成する人事交流推進委員会に参加し、適切な人事交流を計画する。	Ⅰ. 県内の大学と定期的に人事交流計画について協議を行った。 また、2月に開催された茨城地域人事交流推進委員会に出席し、茨城県内の大学等と人事交流計画について、検討を行った。その結果、平成30年度は事務職員を筑波大学に1人、東京大学に1人、出向させた。
⑨	Ⅰ. セキュリティ向上のため有線LANにおける個人認証の導入を検討する。また、情報センターが管理していない無線LANの運用方法について検討する。	Ⅰ. セキュリティ向上に向けた有線LANの個人認証の導入は今年度実施していないため、継続して検討を行う。また、情報センターが管理していない無線LANの運用についても、引き続き検討を行う。
	Ⅱ. サーバ類については、定期的に更新プログラムの適用を行い、適切な運用を行っているか定期的に確認を行う。	Ⅱ. サーバ類について、定期的に更新プログラムの適用を行った。再起動が必要な更新プログラムも、5月、8月、12月、2月に実施した。
⑩	Ⅰ. 機構の中期計画および年度計画を踏まえ、本校の年度計画を策定し、達成状況の点検を行う。	Ⅰ. 年度当初に策定した年度計画に基づき、10月に各所掌委員会等で進めている状況を把握して、計画が達成できるように促し、3月に各実績報告に基づき、点検を行った。
Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置	・ 物品の設置場所などが見える化し、用度係から各部所に実施日時を連絡し、責任者立ち会いのもと実施することで、物品検査の効率化を図る。	・ 物品検査について、9月に各教員等の所有物品リストをグループウェアに掲載し、11月から3月中旬までに管理部門による物品検査を実施した。実施方法について改善し、業務の効率化を図った。

茨城工業高等専門学校 平成29年度計画・実績報告

平成29年度年度計画	平成29年度実績報告
<ul style="list-style-type: none">寮の宿直業務の一部及び図書館業務について、外部委託を実施し、業務効率化及び経費節減を図る。	<ul style="list-style-type: none">引き続き寮の教員宿日直の一部及び図書館業務の全面外部委託を実施した。また、9月から寮の事務当直を廃止し、学生寮指導員を雇用して運用することによって、事務職員の業務軽減を図った。